F-2

東京都大田区臨海部における地区交流型まちづくり学習プログラム構築に関する研究
—(その２)地区交流ワークショップ実施による波及効果—

A Study on the Construction of District Interleague in Town Planning Education Program at Ota-ku Waterfront
-(Part2) An Effect by Enforcement the District Interchange Workshop -

○三嶋武典[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[3]，押田佳子,[3]　首代佑太[4]
*Takenori Mishima[1], Norihisa Yokouchi[2], Tomohide Okada[3], Keiko Oshida[3], Yuta Shudai[4]

Abstract: This study investigated to grasp the evaluation of the education program from teacher's voice. The results are following:1.Theachers needed to learn workshop, 2.Impact for other curriculum caused by the regional community workshop, 3.Impact for teachers by the workshop

１．はじめに

前稿(その１)では，地区交流ワークショップ(以下，地区交流 WS)を実施した２つの小学校の担任教諭の評価から，まちづくり学習プログラムの実施内容に対する成果と課題を把握した．本稿では，前稿で対象とした教諭へのヒアリングから大森第五小学校(以下，大五小）と羽田小学校(以下，羽小)それぞれにみられた地区交流 WS 実施による他教科への波及状況や担当教諭自身への実施効果を捉え，地区交流 WS の学習プログラム構築の際の留意点を考察する．

２．研究方法

前稿と同様に両校の教諭を対象に地区交流 WS の波及効果を捉えるためのヒアリングを実施する(Table1)．

３．結果及び考察

現在までに回答が得られた３名(「羽小」：２名「大五小」：１名)のヒアリング結果を Figure1, Table2 に示す．以降ではこれをもとに特徴的な内容について述べる．

(１)各小学校独自の取り組み—各小学校は，地区交流 WS プログラムを進めていく合間に「地元有識者の講演会」「地元商店街へのヒアリング」といった独自の取り組みを行っていた．これは地元地区を認識する段階の WS(第１回)を経て，担任教諭が各々の地元地区への認識をさらに高める必要があると判断し，実施 に至った．また，学校独自の取り組みとして課題に残ったことは，「事前に教諭間で両地区のまちあるきを行い，教示内容を確認しておくこと」である．そのため，地区交流 WS の学習プログラム構築の際には，教諭が地元地区や相手方地区を学習する時間を含める必要があろう．

(２)他の教科への波及効果—地区交流 WS を行うにあたって，国語の授業や家庭科の授業と連動して地区交流 WS に対応していた．国語の授業では，自分の言葉で相手校の児童に地元地域の特徴を伝えるための発表練習が導入されていた．また家庭科の授業においては，地域に目を向ける学習の時間中に WS で学んだ海辺の汚染問題など，児童が主体的に地元地区の地域特性に関連する意見を述べた．加えて，運動会では WS で学んだ地元の「海」をテーマとした創作ダンスを発表していた．このように，地区交流 WS の実施は他の複数の教科等へ波及する効果があることを捉えた．

(３)担当教諭への効果—効果として，「児童たちから改善策を言わせるように指導するようになった」というように，地区交流 WS を行ったことで教諭は新たな指導方法を見出していた．また，「相手方の児童を見て地元地区の児童に足りないものを教わった」というように，相手方地区の児童との比較を通じて，自身が受け持つ児童たちへの指導内容を発見していた．これは，単一の学校で実施する WS では見出しがたい効果であり，地区交流 WS 特有の成果といえよう．

一方，当プログラムは実施校の教諭だけでは人員的に限界があることが示された．これは，日常こなす学校業務に加えて地元地区の教示内容を事前調査するといった作業が時間的に確保しにくいことや，地区交流 WS 実施の際には大学生 30 名の支援でようやく成立したことからの懸念事項である．このことから教示内容については，地元の教育委員会や行政・大学などの専門機関が連携して内容に関するモデルを構築しておく必要があろう．また，人員の確保においては，児童の保護者や地元地区の協力者を募り，地元住民も育成しながらのまちづくり学習が重要になると考える．

Table1. The method of study

調査日時	2012 年 9 月 18 日・19 日・24 日(1 人あたり 1 時間程度を要した)		
調査方法	対面形式による個別ヒアリング調査		
学校名	担当教員	教員歴	質問項目
羽小	A	6 年	・地区交流 WS 以外に行った学校独自のプログラム ・地区交流 WS を行うにあたって事前に必要なこと ・地区交流 WS の他の教科への影響 ・地区交流 WS を行ったことでの教諭の変化
	B	8 年	
大五小	C	6 年	

１：日大理工・学部・交通　２：日大理工・教員・建築　３：日大理工・教員・交通　４：日大理工・院・不動産

日時	大森第五小学校	羽田小学校
2011 年 1 月	1 月 13 日　第一回大五小まちあるき WS　［目的：地元大森地区を認識］ 内容：大学生が児童に大森地区の地域資源を説明しながらまちあるき 【工夫点】：１班を４～６人にし，各班に大学生１人を配置／教示方法は紙芝居形式	
	⇩ ♦お互いのまちについて学習し合おう（双方）	
4 月	地区交流まちづくり WS 開催決定	
9 月	⇩ ♦さらに地元のまちのことについて詳しく調べることが必要 9 月 13 日　商店街ヒアリング調査（大五小独自の取り組み） ［目的：自分達が興味を持ったことについてより詳しく学習］ 内容：班別に調べたい内容について商店街の店舗にヒアリング調査　（写真―1）	 写真―1：商店街ヒアリング調査風景 写真―2：ヒアリング調査報告会風景
10 月	⇩ ♦自分達で調べたことを発表して，聞いてもらう・分かってもらうことは重要 10 月 18 日　ヒアリング調査報告会　［目的：ヒアリング調査の結果を発表］ 内容：学校独自の取り組みによって得られた地域資源を大学生に発表 【工夫点】：１班を４～６人にし，各班に大学生１人を配置　（写真―2） ⇩ 10 月 25 日　第二回大五小まちあるき WS　［目的：地区交流 WS に向けた説明練習］ 内容：地区交流 WS のリハーサルを大学生相手に行う／大学生は指導にあたる 【工夫点】：本番直前に行うことで児童の記憶に残りやすくする	10 月 4 日　第一回羽小まちあるき WS　［目的：地元羽田地区を認識］ 内容：大学生が児童に羽田地区の地域資源を説明しながらまちあるき 【工夫点】：１班を４～６人にし，各班に大学生１人を配置／教示方法は紙芝居形式 ⇩
	10 月 27 日　第一回地区交流まちづくり WS　［目的：大五小児童が羽小児童に大森の地域資源を説明］	
	内容：大五小児童が羽小児童に大森地区を説明しながらまちあるき（写真-３）／終了後，羽小児童は WS 形式で大森地区の印象を議論 【工夫点】：１班を４～６人にし，各班に大学生１人を配置／教示方法は紙芝居形式	
12 月	⇩ 写真―3：地区交流 WS での説明風景 写真―4：児童交流会での議論の風景	⇩ ♦地区交流 WS に向けてまちのことについて更に詳しく知ることが必要 地元有識者の講演会（羽小独自の取り組み） ［目的：地元羽田地区の歴史について詳しく学習］ 内容：昔の写真を見せてもらいながら，まちの歴史を学習 ⇩ 12 月 5 日　第二回羽小まちあるき WS　［目的：地区交流 WS に向けた説明練習］ 内容：地区交流 WS のリハーサルを大学生相手に行う／大学生は指導にあたる 【工夫点】：本番直前に行うことで児童の記憶に残りやすくする ⇩
	12 月 9 日　第二回地区交流まちづくり WS　［目的：羽小児童が大五小児童に羽田の地域資源を説明］	
	内容：羽小児童が大五小児童に羽田地区を説明しながらまちあるき／終了後，大五小児童は WS 形式で羽田地区の印象を議論 【工夫点】：１班を４～６人にし，各班に大学生１人を配置／教示方法は紙芝居形式 ⇩	⇩
2012 年 2 月	2 月 10 日　児童交流会　［目的：これまでの地区交流 WS を踏まえ、双方のまちの今後について話し合う］（写真―4）	
	【工夫点】：はじめに，大学生が今までの取り組みを振り返るためのプレゼンテーションを実施／児童の発表は黒板にまとめる	
凡例	：大五小と羽小が合同で実施した取り組み　□：各学校独自の取り組み　♦：各小学校の教諭が考えたこと	

Figure1. The flow chart of the district interleague work shop

Table2. The hearing result

学校名	担当教諭	各小学校独自の取り組み	学校独自の取り組みを行うにあたって必要なこと	他の教科への波及効果		教諭への効果
				科目	内容	
羽小	A	地元有識者の講演会	地区交流 WS プログラム実施以前に教諭間で両地区のまちあるきを行い，教示内容を把握しておくことが必要	国語	（相手に自分が伝えたいことについて発表）	①子供達に教えていかなくてはならないことを発見 ⇒理由：大五小の発表を見て，羽小の児童に足りないものを教えてくれた ②地区交流 WS の取り組みを大学生なしで行うことは難しい ⇒理由：先生と子供達だけでここまで回れないし，細かく教えてもらえない
	B	地元有識者の講演会	地区交流 WS プログラム実施以前に教諭間で両地区のまちあるきを行い，教示内容を把握しておくことが必要	国語	話す・聞くという部分でお互いの発表を聞いて意見を取り入れる活動を地区交流 WS の前に実施	①話し方指導の軸・相手に伝えることを大事にしていこうということを発見 ⇒理由：子供達に分かるやすく伝えるようにするための指導が重要 子供達から改善案を言わせるようにしていくことが必要 ②自分の行っている職場の地域が知れることを発見 ⇒理由：自分の職場の地域を大切にしようという考えが生まれた ③地区交流 WS の取り組みを大学生なしで行うことは難しい →理由：学校だけで全てをやるには時間がない・詳しいところまで調べることが難しい
大五小	C	地元商店街へのヒアリング調査	地区交流 WS プログラム実施以前に教諭間で両地区のまちあるきを行い，教示内容を把握しておくことが必要	家庭科 体育	・地域に目を向ける(地域のゴミや騒音問題について) ⇒内容：自分が住んでいるまちの問題点としてどのような場所があるか，またその解決策を考える ・運動会で，WS で学んだ地域特性に関する創作ダンスを披露	①総合学習の柱であることを発見 ⇒理由：これからは自分のまちを大事にしていく人を育てる必要があることに気付く ②地区交流 WS の取り組みを大学生なしで行うことは難しい ⇒理由：学校ではやりきれない細かい所まで調べることが難しい・人数が必要
※□は、本プログラム中では実施していない内容を示す						

［謝辞］本研究を進めるにあたり，ワークショップ開催ならびにその後のヒアリングにあたってご協力頂いた，大田区立大森第五小学校の五十嵐則也校長(当時)をはじめ，大田区立羽田小学校の中村秀夫校長(当時)，藤田伸一教諭，神田麻衣子教諭，望月伸司教諭(当時)，藤野千秋教諭の諸先生に深謝致します．

※本研究は JSPS 科研費 21340043(代表:早稲田大学佐々木葉教授)の助成を受けたものです．